

令和8年度 学校経営における「学校安全」の考え方を見取るための作業シート

■所属

Ⅰ 多様な視点で見る「学校安全」の考え方（アセスメント・ファシリテーション・マネジメント）

①【土台となる人材、組織の現状】

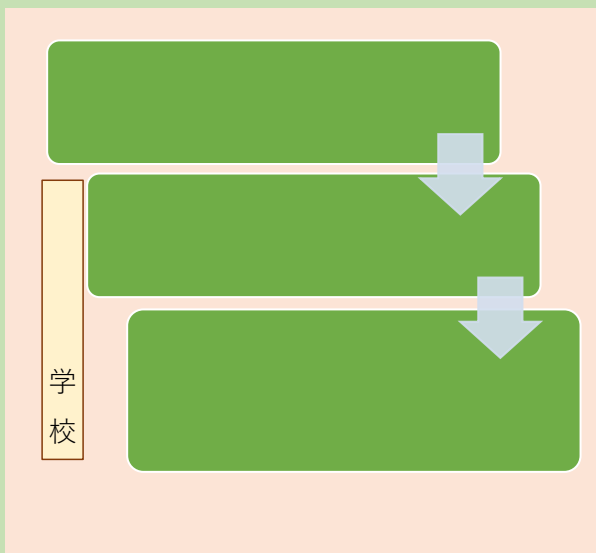
①⑦の視点から現状や方向性をどのように考えましたか。

ア セ ス メ ン ト	⑦ 職員、組織、児童生徒の状況	強み	弱み	R8重点	特記事項 →
	組織的危機管理と計画・評価	☐	☐	☐	
	危機対応力（初期対応・判断）	☐	☐	☐	
	教職員の安全意識と倫理観	☐	☐	☐	
	児童生徒理解と予兆把握・支援	☐	☐	☐	
	安全教育の目標設定と指導実践	☐	☐	☐	
	児童生徒の主体的な危険回避能力	☐	☐	☐	
	施設・設備の安全性と維持管理	☐	☐	☐	
	防災体制と避難訓練の実効性	☐	☐	☐	
	防犯体制と通学路の安全確保	☐	☐	☐	
	地域特性の理解と連携体制	☐	☐	☐	
	ICT活用と情報収集・分析力	☐	☐	☐	
	事後対応と心のケア体制	☐	☐	☐	
	安全教育・管理の専門性と評価	☐	☐	☐	

②【組織・体制・機関・機能・機会】

ファ シリ テー ション	①内部組織体制の構築と運用
	②教職員の安全対応能力の向上
	③外部連携と地域との協働推進
	④安全マネジメントの全体統括と基盤整備

②①～④ ③⑦～⑩の視点から、何をどのようにつないだかなど構想イメージの概要を教えてください。



③【マネジメントの中核として】

マ ネ ジ メ ン ト	⑦計画とPDCA
	⑧危機管理マニュアル
	⑨組織体制と役割
	⑩情報分析と共有
	⑪校長のリーダーシップ
	⑫組織連携・参画
	⑬発信と啓発
	⑭環境と予算
	⑮働き方と持続可能性

2 令和8年度 本校（町村・地区）の学校経営方針における「学校安全」におけるポイント

--	--

3 「学校安全」にかかる作業シートの活用状況

とても参考になった
わりと参考になった
やや参考になった
使いにくかった

☐
☐
☐
☐

改善点等

→

令和8年度 学校経営における「学校安全」の考え方を見取るための作業シート

■所属 後志町立後志小学校

1 多様な視点で見る「学校安全」の考え方（アセスメント・ファシリテーション・マネジメント）

①【土台となる人材、組織の現状】

①⑦の視点から現状や方向性をどのように考えましたか。

アセスメント	⑦ 職員、組織、児童生徒の状況	①⑦の視点から現状や方向性をどのように考えましたか。	R8重点	特記事項
	組織的危機管理と計画・評価	学校安全計画・危機管理マニュアルの整備、組織的な体	☐	→
	危機対応力（初期対応・判断）	事故や災害発生時の初期対応、迅速な通報、的確な状況	☐	
	教職員の安全意識と倫理観	教職員全体の生命尊重の精神、安全意識、倫理観が高く	☐	
	児童生徒理解と予兆把握・支援	いじめ・不登校等の予兆把握、安全行動や心身の理解	☒	
	安全教育の目標設定と指導実践	各教科・領域（総合・特活等）や日常における指導が	☐	
	児童生徒の主体的な危険回避能力	児童生徒自身が危険を予測し、主体的に回避する能力を	☒	
	施設・設備の安全性と維持管理	校舎・遊具等の安全点検が組織的に実践され、維持管理や	☐	
	防災体制と避難訓練の実効性	火災・地震・津波等の災害時の対応が明確で、実効性のあ	☐	
	防犯体制と通学路の安全確保	不審者対応や防犯体制、通学路の安全確保と見守り活動が	☐	
	地域特性の理解と連携体制	地域の特性（自然災害リスク、能出没等）を理解し、家	☐	
	ICT活用と情報収集・分析力	ICT等を活用して事故やヒヤリハット情報を収集・分析し、	☐	
	事後対応と心のケア体制	事故等の発生に備えた事後対応準備、および心のケアの体	☐	
	安全教育・管理の専門性と評価	安全教育の専門性を高める研修や、事故防止のための安全管理・教育の評価が行われて	☐	

②【組織・体制・機関・機能・機会】

②①～④ ③⑦～⑩の視点から、何をどのようににつなぐイメージの概要を教えてください。

ファシリテーション	②①～④ ③⑦～⑩の視点から、何をどのようににつなぐイメージの概要を教えてください。
①内部組織体制の構築と運用	校長は、学校内部における安全管理の責任体制を明確に
⑦教職員の安全対応能力の向上	校長は、教職員一人ひとりが危機発生時に適切に対応でき
⑩外部連携と地域との協働推進	校長は、学校の安全を確保するために、地域社会や関係機
④安全マネジメントの全体統括と基盤整備	校長は、学校安全に関する総合的な方針を策定し、必要な資源を確保するとともに、教育委員会との連携を通じて、学校安全システムの持続的な改善と発展を主導することを

と地域との協働

→

おたよりや安心メール
信と啓発を行う

→

地域特性の理解と連携体制
強化

③【マネジメントの中核として】

マネジメント	③⑦～⑩の視点から、何をどのようににつなぐイメージの概要を教えてください。
⑦計画とPDCA	学校安全計画の実効性と継続的な改善プロセス
⑩危機管理マニュアル	マニュアルの整備状況と実用性の確保
⑦組織体制と役割	教職員の役割分担と緊急時の指揮命令系統
⑦情報分析と共有	事故・ヒヤリハット情報の収集・分析と組織内共有
⑩校長のリーダーシップ	校長自身の行動、判断、指導力
⑩組織連携・参画	児童生徒、委員会、専門家との連携
⑩発信と啓発	保護者・地域への情報発信と安全意識の啓発
⑩環境と予算	物的環境の整備と必要な予算の事付け
⑩働き方と持続可能性	教職員の負担を考慮した持続可能な安全体制

2 令和8年度 本校（町村・地区）の学校経営方針における「学校安全」におけるポイント

- ・ 小中連携・小小連携を強化し、小学校△校の学校安全における避難訓練や防犯教育の在り方を擦り合わせる。
- ・ 児童の主体的な危機回避能力を高めるために、例えば、避難経路を複数提示し、状況に応じて選ばせる等、避難訓練を「指示待ち型」から「自分で判断する訓練」へ変革する。

3 「学校安全」にかかる作業シートの活用状況

とても参考になった
わりと参考になった
やや参考になった
使いにくかった

改善点等
→改善点等、お気づきの点を記入願います。

後志小中学校長会「R8 小学校研究プロジェクト」

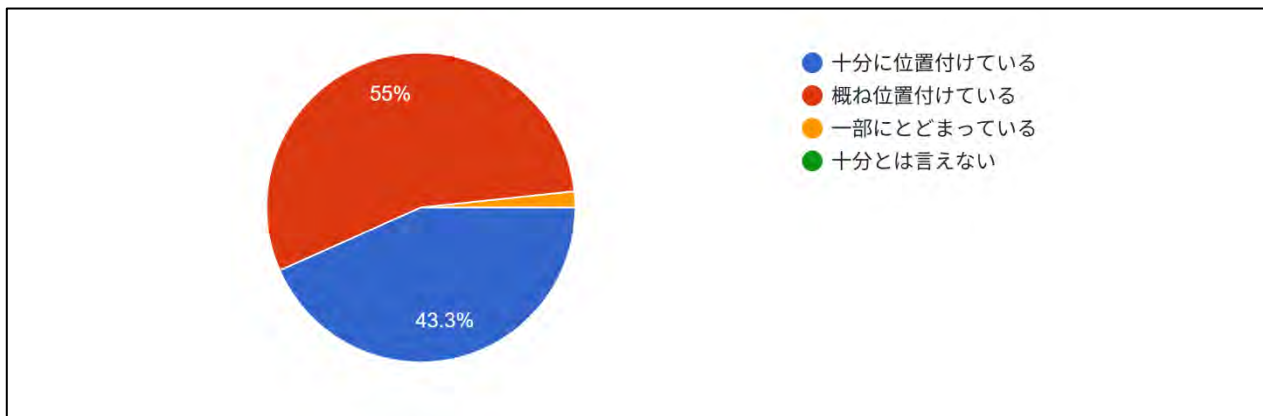
「学校安全」に係る第1次アンケート集計結果～60校（100%）回答

R8.2.17

【A アセスメント — 安全教育・防災教育の現状把握 — 】

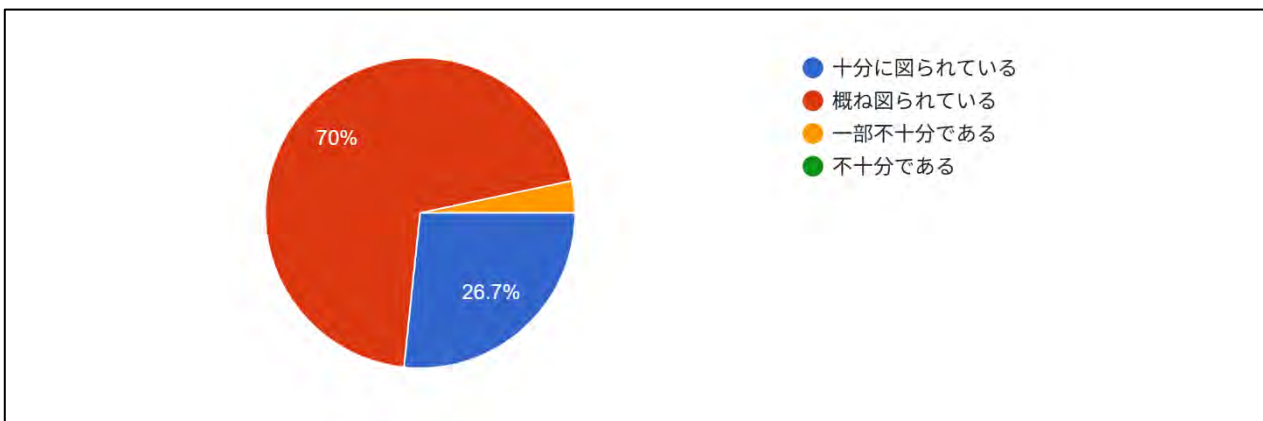
問1

学校安全（防災・防犯・事故防止等）に関する取組は、学校経営上、どの程度重点的に位置付けられていますか。



問2

危機管理マニュアルや対応計画は、実態に即して整備・見直しが図られていますか。

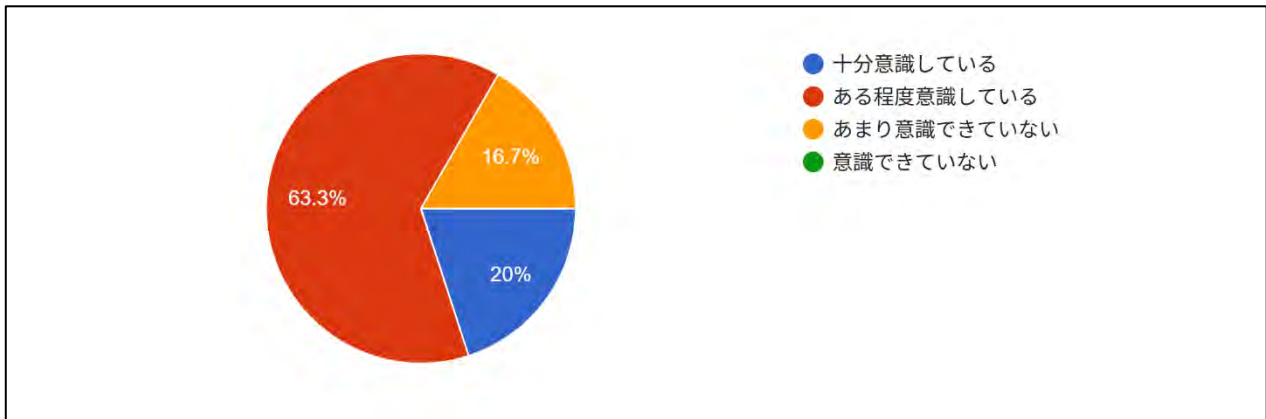


※課題がある場合は、具体的にお書きください。（抜粋）

- ・ 見直しのタイミングが明確ではなく、通知等によっての見直しになるので、後手にまわりがちなこと。
- ・ 毎年、見直しはしているが、管理職のみの見直しになっていて、職員全体のものになっていない。
- ・ 職員が「自分事」として考え、実際にイメージしながらマニュアルを読んでいるかどうか。
- ・ 職員数が少ないため災害時の役割分担が難しい面がある（一人で何役かをこなさなければならない）
- ・ 危機管理マニュアル等の内容の統一性や直近の課題の反映などが十分ではない。
- ・ マニュアルが多すぎて、起こってから確認するものになりかねない。対応について構造的に整理する必要性を感じている。
- ・ 問題発生において、児童の避難等の対応や職員の動きについては想定されているが、自然災害時において避難所等地域との連携については、役場を含め事前協議等行っていない。
- ・ マニュアルに対しての日常的な意識が教職員全体に少し薄い。
- ・ 整備や見直しなども、どの程度が整備したことになるのか、見直したことになるのか校長の認識によって差が大きいと思われる。

問3

防災訓練・避難訓練は、**児童生徒が状況を判断し、自ら行動する力の育成**を意識して実施されていますか。



※工夫している点、課題と感じている点があればお書きください。（抜粋）

【工夫している点】

- ・津波対応に重点を置き、防具や避難後の備品の充実を意識している点。
- ・避難最中に、子どもが怪我したというシュミレーションも入れて、訓練している。
- ・今年度からコミュニティ・スクール主体で、小・中・地域合同で実施することで、幅広い視点で防災教育を網羅する工夫をしている。
- ・職員の意識が「児童自らが判断し、行動できる力の育成」に向かうように、分掌提案などで示すようにしている。

【課題と感じている点】

- ・現在の訓練等は、「指示に従い、適切に行動する力」がメインで、児童の「自ら判断し、行動する力」の育成といった点では弱いです。
- ・役場防災担当との連携、小中9年間を見通した防災教育計画。
- ・一方的な講話が多い。防災訓練・避難訓練の目的やねらいを生徒に落とし込めていない。
- ・防災訓練では、最終的には自ら状況を判断し、自ら行動する力が大事だということは言葉では伝えているが、訓練内容への反映が薄い。

問4

非常時における児童生徒の行動について、「自ら考え、行動できている」と感じる場面、または課題として感じている点がありますか。（抜粋）

【成果として感じる場面】

- ・休み時間に避難訓練を行った際に、指示を聞くとときと、行動するときの区別がきちんとついてた。
- ・低学年や特性のある子どもたちもスムーズに避難行動がとれるように「立ち止まり訓練」を年間で複数回実施しており、通常の訓練のスムーズな避難行動に活かされています。
- ・本校では、火災と地震の避難訓練、不審者対応訓練（今年度は小学校と合同で実施）、1日防災学校、原子力防災訓練を行っている。それぞれの訓練に応じて、自分の命を守る行動、守り方が身についてきていると感じている。特に、不審者対応訓練では、小学生との合同実施のため、年長者としての適切な関わりが見られる。

【課題として感じている点】

- ・非常時に限らず、日常から自ら考えて行動できる生徒を育成するための、校内体制の充実と先生方の意識の醸成が課題だと感じています。
- ・実際に避難する場面が出てきた時に、生徒が行動できるかは、不安である。
- ・「自ら考え、行動できている」と評価する場面が、そもそも少ないことが課題です。
- ・訓練後の生徒自身の振り返りをさせ、全体で共有したり、次への意欲付けをしていくことが課題。

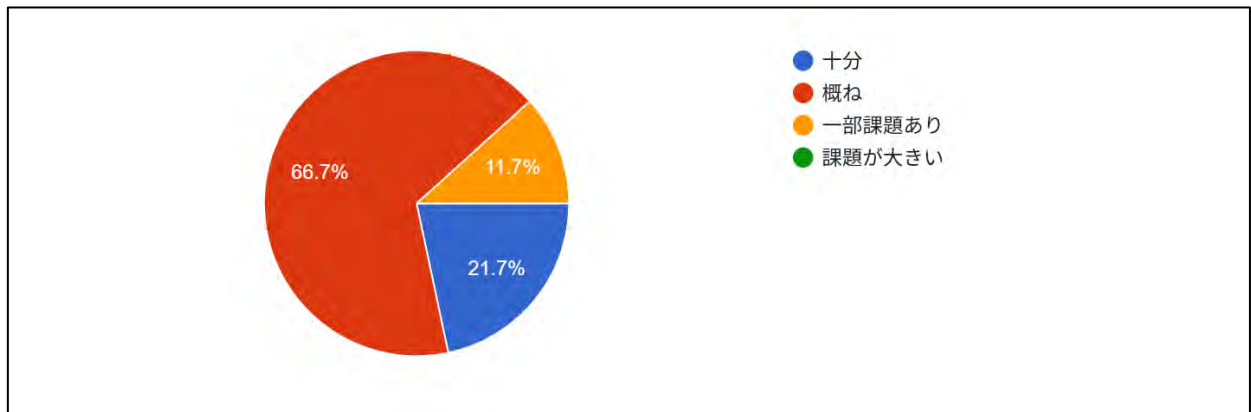
【分析・考察】

- ・訓練の場面ではできているが、日常や想定外の場面での転移力（応用力）に不安を抱えている校長が多い。
- ・実体験（実際の揺れなど）が伴った際には一定の成果が見られるが、それを継続的な意識向上に繋げる難しさが指摘されている。
- ・「教える防災」から「考える防災」への授業設計の見直しが必要である。
- ・学校内だけでなく、地域や登下校中など、教員の目が届かない場所でのシミュレーション学習の拡充が急務である。

【B ファシリテーション ― 組織的・計画的な取組の推進 ― 】

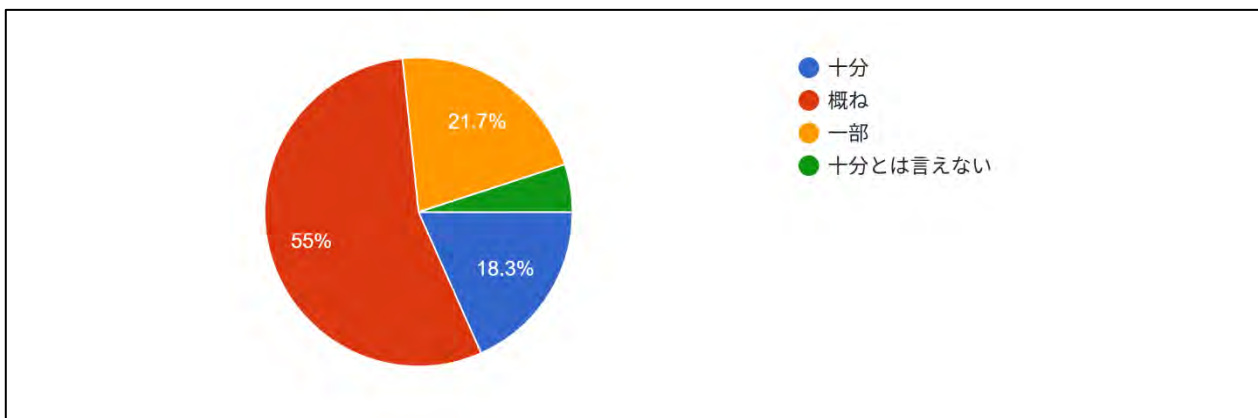
問5

学校安全に関する校内組織（分掌・役割分担等）は、機能的に編成・運営されていますか。



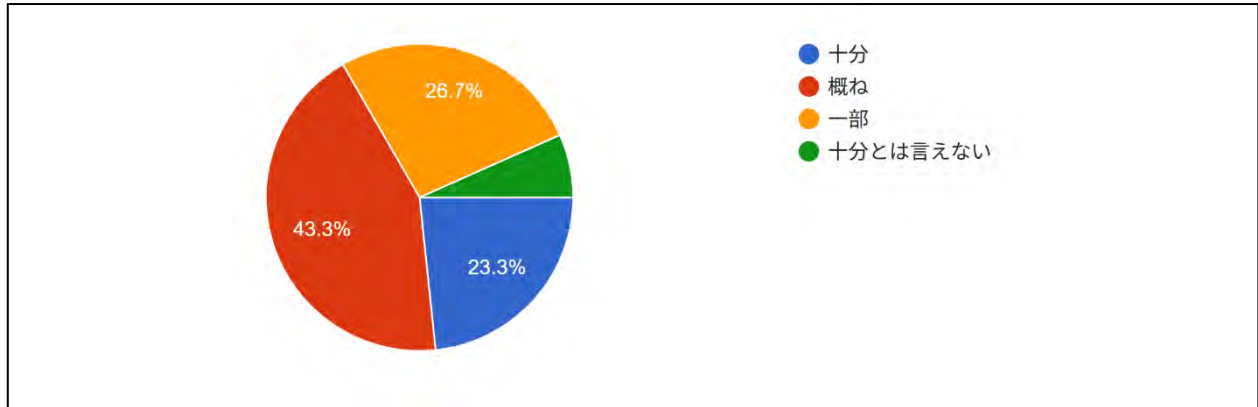
問6

教職員研修は、安全教育・防災教育を児童生徒の行動力の育成につなげる視点で行われていますか。



問7

家庭・地域・関係機関（行政・警察・消防等）との連携は、非常時の対応体制としてだけでなく、**児童生徒の防災意識や行動力の育成につながる形**で図られていますか。



問8

学校安全に関する取組を進める上で、**後志地域の特性（地理・気象・人口規模等）を踏まえた工夫や課題があればお書きください。（抜粋）**

【工夫している点】

- ・役場との連携の中で、一日防災学校を毎年行い、段ボールベッドやテント設営を子供だけで行い、停電を想定して真っ暗にする状態などをつくり、かなり現実的な取組をしている。
- ・自校だけでなく、隣町が津波被害にあったときに、本校を災害避難場所として展開する想定も考えているところ。また、逆に、断層がある本町が被災したときに、他町村を頼って避難させる場合のオペレーションについて、町教委と相談中。
- ・小人数の自治体であるがゆえ、避難・緊急下校措置等では各学校と行政機関が迅速につながり、安全対策を図ることができる。
- ・役場防災担当と連携し、義務教育9年間のカリキュラムを作成した。町の地理的条件のほか、インフラ状況なども考えた内容が発達段階に応じて組まれている。今後も役場防災とは連携を密に図っていきたい。

【課題と感じている点】

- ・雪災害に関する情報収集や判断が、毎年悩ましいです。
- ・学校規模が中規模であり、日常から昔ながらの生徒指導を行っていると、非常時の対応等は追いつかなくなる。教育活動全体が自ら考える授業となるようにしていかなければならない。また、避難所となる学校での行政との不断の連携や町の避難関係マニュアルの共有など、時間をかけていきたい。
- ・少子化が進み、町村1校ずつの小・中学校というところが増えてきているので、もっと地域と連携した防災訓練の取組が必要。
- ・原発のある管内ですから、原子力防災訓練に毎年参加するというのが工夫だと思います。
- ・冬期間の暴風雪時の臨休等の判断が、学校ごと、学校間協議で、町村教委（主導又は合議）主体で等の形がある。町村の広さや状況の多様性により、統一できないことだが、校長の決断が難しい局面がある。
- ・避難訓練や防災の授業が1・2学期に設定されることが多く、冬季の雪が障害となることについて、想定が不足する場合がある。
- ・「地域の中の学校」であり、「地域で子どもを育てる」ために、CS 学校運営協議会としての取組を進めて行くことが課題として考えられる。
- ・町村行政の防災にかかわる内容（ヒグマ、荒天、暑熱等）については、臨休などを包括的に判断することにも必要ではないかと思います。

【分析・考察】

- ・組織の機能性（問5）は高いものの、それが児童の行動力育成（問6）や外部連携（問7）に十分に昇華しきれていない現状が浮き彫りとなっている。
- ・後志地域は「津波・積雪・ヒグマ・孤立」という多重のリスクを抱えており、マニュアル通りの対応が困難な場面が多い。そのため、「地域の実情を熟知した教職員の判断力」と「指示を待たずに動ける子供の主体的判断力」の育成が、他地域以上に死活的に重要となる。小規模校の機動力を活かし、地域住民を巻き込んだ「当事者としての防災教育」を経営の重点に据えるべきである。

【C マネジメント ― 校長としての経営判断・重点化 ― 】

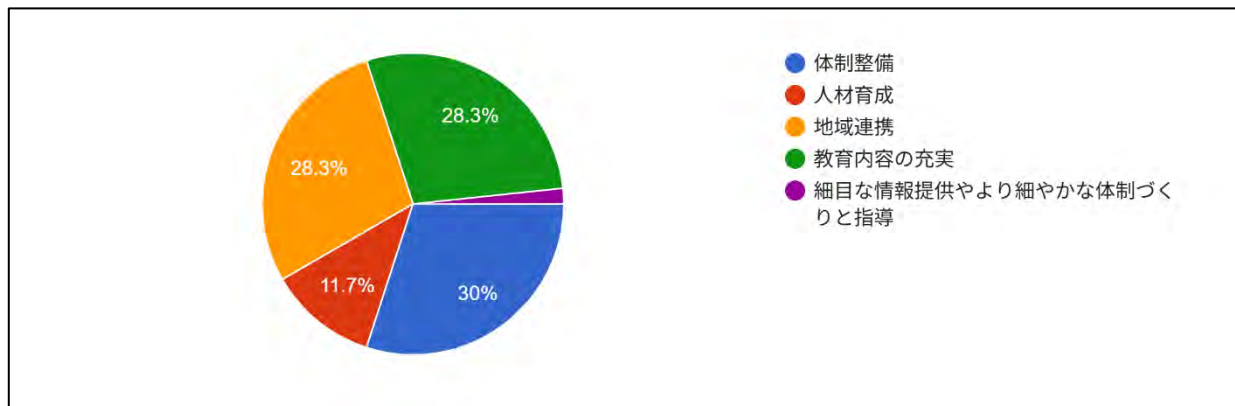
問9

学校安全を進める上で、校長として「難しさ」や「課題」を感じている点は何ですか。 **（抜粋）**

- ・避難訓練の提案の際、詳細を確認する傾向にある教職員の気質を改善したい。いざというときは提案通りには動けないし、その場で各自が判断することの方が多いが、判断よりも提案で詳細に確認しないと動けないという発想になっている。
- ・職員の企画力、外部機関との連携力
- ・職員の正常バイアスをわかりやすく解くこと
- ・教職員の危機意識を揃えること。地域に根ざした防災への理解が不足していること。
- ・新たな危機に関する訓練の導入や周知の仕方、地域との連携
- ・取り組むべき事柄が多く、実態に合わせて優先順位をつけていくと、なかなかすべてを網羅できない。
- ・津波、不審者、クマ、ミサイルなど脅威が多岐にわたる点。
- ・学校だけでは限界があるため、外部機関と連携するうえで、職員の意識をどのように高め、組織的にどう動かすか。
- ・学校だけでは解決できない場面が多い。それ故の連携や協働体制の構築が重要だと感じる。
- ・防災教育や安全教育に関わる授業研究の推進。
- ・大人がいない中で何らかな場面に直面した際、「正しい判断とよりよい行動」ができることを身に付けさせる点。

問10

今後、学校安全の取組を進めるにあたり、校長として特に強化したい視点はどれですか。



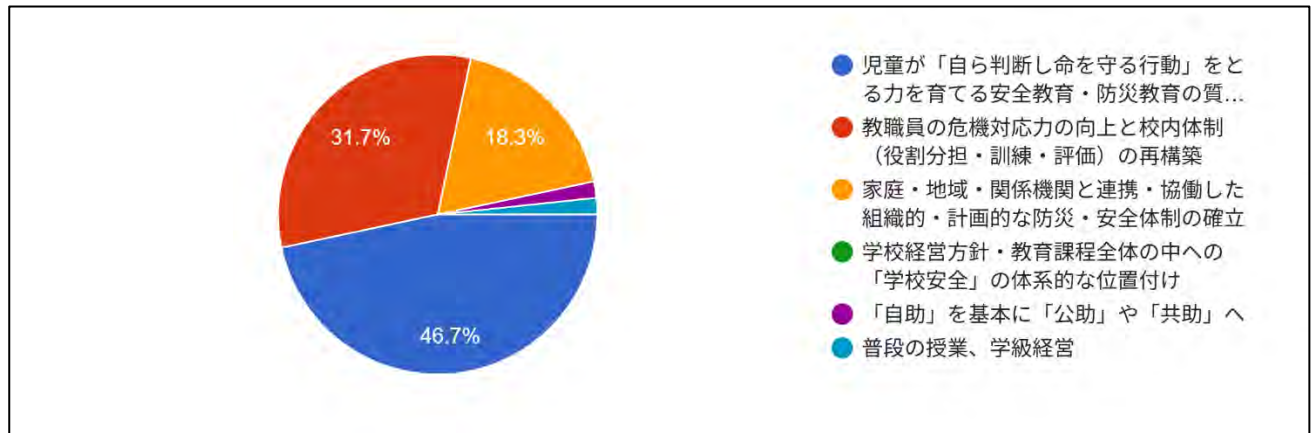
【分析・考察】

- ・「校長が決めたマニュアル」ではなく、「自分たちが守るべき命」として捉える。小規模校ならではの多機能性を逆手に取り、全職員が複数の役割を相互補完できる体制への移行が必要である。
- ・「学校に預ければ安心」という依存モデルから脱却が必要である。後志地域の厳しい気象特性や広域避難の難しさを家庭と共有し、放課後や休日を含めた24時間の安全保障を地域全体で議論する場が必要である。
- ・アンケート全体を通して「児童に任せきれない不安」が散見される。これは教職員の教育技術の課題として捉えるだけでなく、訓練設定の高度化（抜き打ち・変則時間等）を通じた、児童自身の「自ら命を守る行動力」に対する信頼を高めていくことが求められる。

【D 総括】

問 11

問 1～10 の回答を踏まえ、現在、校長として「学校安全（安全教育・防災教育）」の充実に向け、最も重点的に取り組むべき経営上の戦略として当てはまるものを 1 つ選んでください。



※そのように考える理由や背景があれば、簡潔にお書きください。（抜粋）

【児童が「自ら判断し、命を守る行動」をとる力を育てる安全教育・防災教育の質的充実】

- ・ 想定外の事態に陥った時（時・場所・場合）の、各自による即時行動が必要。現行では、何でも学校に頼りすぎの感が否めない。
- ・ 自分事としてとらえる、自分で考えて判断することは学校経営の重点としており、将来的にも自分の身は自分で守る力をつけることが一番大事だと考えるため。
- ・ 全ては「自分事・当事者意識」であり、子どもが自ら判断し行動することが目指す姿であるため。
- ・ 集団生活の中であっていつ起こるかかわからない事案に対して日頃から安全・防災への意識を高くもっていただかなければならないため。
- ・ 自立した学習者や予測困難な時代における社会の創り手を育成するという観点からも、児童生徒が自ら考えて行動できる力を一層高めていく必要があると考えます。
- ・ 最終的には自分の命は自分で守るという意識を育てることが、最も汎用性があると考えため。
- ・ 極小規模校で児童数、教職員数が少ないため子供に自ら適切に判断し、主体的に行動できる資質・能力を育成することが、子供の命を守ることにつながると考えるから。
- ・ 社会変化や家族構成の変化によって、下校後は児童だけで過ごす時間の長い家庭も増えている。児童が事件や災害等に巻き込まれる可能性は学校滞在時よりそれ以外の時間・場所が圧倒的に高いと考えられる。指示通り、訓練通りの行動では十分とは言えない。
- ・ 学校評価でも、「命と健康を守る判断力の育成」において、保護者や教職員の数値が低かった。これまでのように、マニュアル通りに行う訓練というよりも、どのような力を身に付ける訓練なのかを再構築し、評価の観点を含めて検討していく必要性を感じている。

【教職員の危機対応力の向上と校内体制（役割分担・訓練・評価）の再構築】

- ・ 若手教員が多い本校ですので、学校安全に限らず、危機管理意識と対応能力の育成が課題であるため。
- ・ 教頭が不在の時も、いる職員だけで動くことができるか、そこまで考えて訓練できる職員にしないといけないと考える。
- ・ 避難訓練や防災教育教室等、行事として取り組んでいる傾向がある。管理職だけではなく、職員の意識改革が必要と感じている。そのための時間（研修等）を今後は生み出していきたい。（今後、学力向上関係のを裁量の時間に回して、ミニ研修を増やすなど）
- ・ 教職員の体制（内容を含む）が充実することにより、子どもたちに指示だけでなく、「考えて行動する力」をつけることにつながっていくと考えているから。
- ・ 各活動が形骸化していないか？学校や児童の実態にあっているのか？子どもの命を守るための配慮をアップデートできているか？
- ・ 児童・生徒が、一つしかない自分の命の守り方を身に付けることが何よりも大切であると考えれば、その力を正しく身に付けさせるための校内体制が必要であると思うから。
- ・ 児童が「自ら判断し命を守る行動」をとる力を育てる安全教育・防災教育の質的充実は、教職員の危機対応力向上と校内体制の再構築や学校経営方針・教育課程全体の中での「学校安全」の体系的な位置付けとして、校長のリーダーシップに依って推進できると考える。家庭・地域・関係機関と連携・協働した組織的・計画的な防災・安全体制の確立について、学校は必要だと感じながらも、家庭・地域・関係機関への

働きかけは、学校だけが動いても進まないという課題を感じる。

【家庭・地域・関係機関と連携・協働した組織的・計画的な防災・安全体制の確立】

- ・「釜石の奇跡」のように、住民全体が危機意識を持つべきである。
- ・学校が市街地から離れているため、家庭、地域、関係機関との連携が欠かせないため。
- ・実際には学校だけで完結できることは少なく、保護者や地域、関係機関とのスムーズな連携によって児童の安全が確保できると考えるため、また、日常から役割の確認などができていると良いと感ずるため。
- ・津波や河川の氾濫に対応するためには、別の場所に避難する必要がある。その場合の移動方法・計画を関係機関と練っておかなければならない。
- ・地域で大きな災害が起こった場合、立地的にも設備的にも本校が避難所として大きな役割を果たすことになる。しかし、それを想定した訓練があまり行われてきていない。ただ、学校だけでできることは限られているので、地域住民、公的機関等とつながりをもって、生徒の防災意識高揚・防災スキルの向上や、地域の防災力・減災力の向上を図る必要がある。そのための校長としてのマネジメント能力がとても重要だと感じています。

【その他】

- ・「自助」を基本に「公助」や「共助」へ。防災教育を充実させ、様々な力を身に付けさせたいから。
- ・普段の授業、学級経営。子どもの行動の原点だから。

【分析・考察】

最も重視すべき戦略として、約半数（46.7%）が「児童の判断力・行動力の質的充実」を選択している。これは、学校管理下のみならず、放課後や家庭など、大人の目が届かない場所での「生存能力」を育成することが、予測不可能な災害（想定外）への唯一の対抗策であるという、現場の強い危機感の現れと言える。

【全体を通して】

- ・問1で98%以上が重点事項としている点から、学校組織として安全確保を教育活動の基盤（土台）と捉える文化が醸成されていると言える。
- ・問2の整備率97%は、行政的な指導も含め、最低限必要な「守りの型」は整っていると言える。
- ・問11で「自ら判断し命を守る力の育成」が半数近くを占めたことは、従来の「指示待ち避難」から「主体的行動」への意識の転換が、校長としての共通認識になっていると考えられる。
- ・一方で、自由記述からは「書類上の安全」と「現場の対応力」の乖離に対する強い危機感が浮き彫りになっている。
- ・マニュアルが分厚くなるほど、内容が共有されにくい状況となり、教職員が「いざという時に動けない」といったリスクを抱えている。
- ・後志地区に多い小規模校では、一人で何役もこなす必要があり、特定の教諭が不在、教頭・校長が動けない事態等を想定した代替・補完の役割を共有し合う体制の構築が必要になっている。
- ・校長の46.7%が挙げた「自ら判断する力」を育てるには、授業として教えるだけでなく、学校生活全体での取組として推進していく必要がある。
- ・校長の多くが感じている「形骸化への懸念」は、「より高い次元の安全を目指しているからこそこの不安」と捉えることができる。今後は、既存のマニュアルをスリム化し、「緊急時行動チャート」が機能するような、状況に応じた判断力を高める組織づくりを進めていくことが求められる。

P108 グラフの訂正

誤

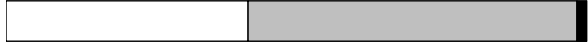
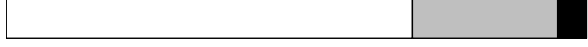
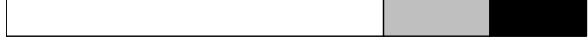
グラフタイトルの誤り

① アセスメントー安全教育・防災教育の現状把握ー

● 防災訓練・避難訓練は、児童生徒が状況を判断し、自ら行動する力の育成を意識して実施している。  ☐十分に位置付けている ☐概ね位置付けている ☒一部にとどまっている
危機管理マニュアルや対応計画は、実態に即して整備・見直しが図られている。  ☐概ね図られている ☐十分に図られている ☒一部不十分である
▲ 学校安全に関する取組は、どの程度重点的に位置付けられている。  ☐ある程度意識している ☐十分に意識している ☒あまり意識できていない

正

① アセスメントー安全教育・防災教育の現状把握ー

▲ 学校安全に関する取組は、どの程度重点的に位置付けられている。  ☐十分に位置付けている ☐概ね位置付けている ☒一部にとどまっている
危機管理マニュアルや対応計画は、実態に即して整備・見直しが図られている。  ☐概ね図られている ☐十分に図られている ☒一部不十分である
● 防災訓練・避難訓練は、児童生徒が状況を判断し、自ら行動する力の育成を意識して実施されている。  ☐ある程度意識している ☐十分に意識している ☒あまり意識できていない

誤

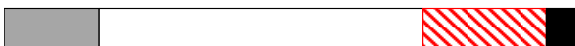
「一部課題あり」が非表示

② ファシリテーションー組織的・計画的な取組の推進ー

家庭・地域・関係機関との連携は、児童生徒の防災意識や行動力の育成につながる形で図られている。  ☐十分 ☐概ね ☒一部課題あり ☐十分とは言えない
教職員研修は、安全教育・防災教育を児童生徒の行動力の育成につなげる視点で行われている。  ☐十分 ☐概ね ☒一部課題あり ☐十分とは言えない
学校安全に関する校内組織は、機能的に編成・運営されている。  ☐十分 ☐概ね ☒一部課題あり ☐十分とは言えない

正

② ファシリテーションー組織的・計画的な取組の推進ー

家庭・地域・関係機関との連携は、児童生徒の防災意識や行動力の育成につながる形で図られている。  ☐十分 ☐概ね ☒一部課題あり ☐十分とは言えない
教職員研修は、安全教育・防災教育を児童生徒の行動力の育成につなげる視点で行われている。  ☐十分 ☐概ね ☒一部課題あり ☐十分とは言えない
学校安全に関する校内組織は、機能的に編成・運営されている。  ☐十分 ☐概ね ☒一部課題あり ☐十分とは言えない

R 8年度「学校安全版」作業シートによる学校安全の考え方を捉えた「後志ケース」

